

44 カーネーション

区 分	持続性の高い農業生産方式の内容	施用の目安等
有機質資材 施用技術	<p>○たい肥等有機質資材施用技術 土壌診断に基づき、適切に完熟たい肥等を施用する。</p>	たい肥 1～2 t/10a
化学肥料 低減技術	<p>○局所施肥技術 局所施肥（養液土耕栽培等）により肥効率を向上させる。</p> <p>○肥効調節型肥料施用技術 被覆肥料の利用により肥効率を向上させる。</p> <p>○有機質肥料施用技術 有機質肥料を用いた施肥体系とする。</p>	化学合成窒素量 ・冬切り 17.8kg/10a 以内
化学農薬 低減技術	<p>○生物農薬利用技術(天敵は施設) 生物由来の有効成分である農薬の利用により病害虫を駆除する。 ・天敵：チリカブリダニ剤(ハダニ類)など ・生物農薬：BT剤(ハモンヨウ)など</p> <p>○抵抗性品種栽培・台木利用技術 土壌病害虫等に強い台木への接木や耐病性品種の栽培により病気等の発生を抑制する。</p> <p>○熱利用土壌消毒技術 蒸気、太陽熱などの利用により土壌病害虫を駆除する。</p> <p>○光利用技術 色彩粘着板利用により害虫を捕殺する。 黄色蛍光灯、光反射資材利用により害虫の活動を抑止したり忌避させる。</p> <p>○被覆栽培技術 被覆資材により有害動植物の付着を防止する。 ・防虫ネット(開口部被覆)(アブラムシ類・ハモンヨウ・アザミマ類など)</p> <p>○フェロモン剤利用技術 フェロモン剤の利用により害虫の大量誘殺や交信を攪乱させる。 ・リトルア剤(ハモンヨウ)など</p> <p>○マルチ栽培技術 紫外線反射マルチ、稲わら等利用により有害動植物のまん延防止する。</p>	化学合成農薬成分回数 ・冬切り 15成分以内
<p>その他の留意事項</p> <p>有機質肥料、石灰質肥料等は早めに施用、混和する。 有機質資材施用で肥料効果が期待できる時は減肥する。また、土壌分析により施肥量を調節する。 収穫後の残さは適切に処分する。</p>		